スルガ銀行ソフトバンク支店

（変革を先導する地域金融機関）

先月末時点で、東証一部上場銀行の株価ベスト５をランキングすると下表のようになる。

順位	銀行名	株価
１	スルガ銀行	１，８５０
２	東京三菱銀行	１，３９４
３	住友銀行	１，３５１
４	三和銀行	１，０４４
５	静岡銀行	１，０００

（単位：円、額面５０円）

この表を見て、日本一の高株価銀行が静岡県沼津市に本店を置く地方銀行のスルガ銀行であることを意外に思われる方がいるかもしれない。このスルガ銀行が株価トップに躍り出たのは半年前の昨年１０月のことであった。

同じ静岡県に本拠を置く静岡銀行は、規模の大小は別として日本で最も財務内容の良い銀行であると評価されている（反面リスクテイクに臆病で、シブ銀などと呼ばれている）が、その静岡銀行が５位で、内容がそれほど良いとも思われないスルガ銀行がトップに躍進したのは何故か。そこに、現在の日本の銀行が置かれた状況がある程度垣間見えてくる。

もともとスルガ銀行は数年前からユニークな取組みをして、一部金融関係者の注目を受けていた。窓口行員は基本的に立って仕事をする（椅子がない－お客様に目線を合わせる）、移動店舗の設置（バスに店舗機能を搭載して動き回る）等が知られていたが、昨年よりそのユニークさを加速していた。今では当り前のコンビニ内ＡＴＭ設置や通信取引支店の設置などだ。

新聞広告でご覧になった方も多いと思うが、宝くじ券付き定期預金を新聞広告で全国から募集したのも同行だ。定期預金をするとその金額期間によって、夏と冬のジャンボ宝くじ券が一定枚数送られるという商品である。この商品によって、スルガ銀行は地域銀行であるにも拘らず一挙に全国区の銀行になった。この定期預金で全国からかなりの預金を集めているようだ。商品設計は単純であるが、低金利下での預金者の心理を上手く汲み取った点がヒットした理由であろう。

またスルガ銀行は早くから株式の流動化に努めてきた。金融機関同士で相互に持ち合っていた株式を外国人投資家等に積極的に売り出したのだ。通常の銀行と全く反対の行動をとった。試しに会社四季報を見てみると、日本の銀行は殆ど大手生保や大手銀行が上位株主となっていて不動の位置を占めているが如くであるが、スルガ銀行には生保や銀行の影がかなり薄い。

株式流動化は経営に自信がなければ容易に踏み切れない行動だ。白紙委任状を出してくれる金融機関から、白紙委任状を無条件では出してくれない投資家に株を移動させることは、今迄の銀行経営者にとって非常識なことだった。スルガ銀行経営者は非常識を実行した。

株式市場は、従来の地銀には考えられなかったスルガ銀行の行動を評価した。高株価は、果敢に変化に対応しようとするスルガ銀行の経営姿勢に敬意を表したものと云える。同行の業績数値は株価に追いついていないようだが、市場が与えた高得点は、銀行株評価のスタンスが安定から成長に移っている好事例と見ることが出来る。

その後株式流動化に追随する銀行が出てきているが、これもスルガ銀行の高株価を意識してのことであろうか。地域の殿様と揶揄されてきた地銀が漸くその重い腰を上げてきたことは、スルガ銀行の功績と云っていいかもしれない。

そのスルガ銀行が、４月１７日インターネット上に「スルガ銀行ソフトバンク支店」を開設した。その名から推測出来る通り、ソフトバンクと提携して開設したバーチャル銀行店舗である。このネット店舗は、スルガ銀行の一組織という形態をとっているが、実体は独立した銀行である点が大手銀行のネットバンキングと全く異なる。

２４時間３６５日営業しているのは勿論であるが、この店舗は既存の取引顧客にネット利用環境を提供する店舗ではない。預金者はスルガ銀行の既存預金者と切離されているのだ。取引を希望する者は新規に口座を開設する必要がある。たった一店舗であるが、取引先を日本全国に求めているネット専業銀行なのである。

現在、金融機関を始めいろいろな企業がネット専業銀行の開設を計画している。今年の夏から来年にかけて幾つかの銀行がネット上に立ちあがるだろう。私は「新もんずき」だから、おそらくネット銀行と取引を開始する。その時何処を選ぶだろうか。私の心情としては「スルガ銀行ソフトバンク支店」と取引をしてみたい。

TEL. 0438−53−6092 FAX. 0438−53−6096
E-mail smc_toyo@hi-ho. ne. jp
《転載・複製等はご連絡下さい》